

# けい い も 敬意を持つ

ノエル・ランバート・バラス  
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、オーストラリアでの出来事です。

ノアは、お姉さんのクリアがふわふわの毛布を椅子にかけるのを手伝いました。

「これはここでいいの？」と言いながら、クジラもようの青い毛布をかかげました。

「うん！そしてこれはドアにするの。」クリアはひみつ基地の片側を指さしました。

「学校の時間よ！」お母さんが声をかけました。ノアはお姉さんを見ました。「放課後に完成させられるかな？」

「そしてママとパパに、中でゲームをしてもいいか

「そんなこと  
言わないで  
くれるかな」  
とノアは  
言いました。

聞いてみようよ」とクリアは言いました。

ノアはにっこりとうなずきました。ひみつ基地を作って、お姉さんと遊べるのがうれしくてたまりませんでした。

その日の休み時間、ノアは友達の手とマークと遊びました。

「片足でジャンプしてみようよ」とタイが言いました。

「いいよ」とノアは言いました。「だれがいちばん長くジャンプできるか勝負しよう！」

男の子たちはジャンプし始めました。ノアはマークにぶつかってしまい、ガラガラ笑いました。

ちょうどそのとき、クリアがクラスの女の子たちと一緒に歩いて来ました。

「こんにちは」とクリアは手をふって言いました。

「あーあ、女の子が来るぞ！女の子となんか一緒に遊びたくないね」とタイが言いました。そしてク



リアとその友達を意地悪な名前でもよびました。

ノアはその言葉を聞いていやな気持ちになりました。人を意地悪な名前でもよぶのは、良いことではありません。

ノアはクリアと友達とタイが無視して立ち去るのを見ていました。

ノアは、たとえクリアが必要としていないとしても、クリアのために立ち上がるべきだと思いました。クリアは大好きなお姉さんなのです。

ノアは深く息をすいこみました。「ねえ、そんなこと言わないでくれるかな」と、タイに言いました。「そんなふうにならなければ、クリアはいやだと思う。ぼくもいやだな。」

「そっか。分かった」と、タイはかたをすくめて言いました。

ノアはほっと息をつきました。気分が晴れました。その夜、ノアとクリアはお母さんとお父さんと一緒にひみつ基地でゲームをしました。

「今日は学校はどうだった？」お父さんはカードを山の上に置きながら、たずねました。

「休み時間に、タイがクリアを意地悪な名前でもよんだ」とノアは言いました。「だからやめるよう

に言ったんだ。」

クリアはカードから目を上げて言いました。「そうだったの？」

ノアはうなずきました。「うん。タイが言ったことは親切じゃなかったし、ほんとうのことじゃないって分かってたからね。」

お母さんとお父さんとクリアはにっこりしました。「ありがとう」とクリアは言いました。

「お姉ちゃんに敬意をしめしてくれてうれしいわ」とお母さんが言いました。

「そうだね、とても勇敢だったね」とお父さんが言いました。「たがいに敬意をしめし合うのは大切なことだね。たとえ友達に対して立ち上がらなければならないとしても。」

ノアはほほえみ返しました。自分は正しいことをしたのだと知って、うれしくなりました。●

この話をげきにしてみましょう！もし友達だれかを意地悪な名前でもよんだら、あなたは  
どうしますか？